



令和6年12月2日 近江八幡市立沖島幼稚園

琵琶湖に“オオバン”がやってきました。「琵琶湖にカモさんが増えた。」と言いながら散歩をしていると、島民のおじさんが「寒くなるとやってくるんや。寒い遠いところから琵琶湖にきてるんやで。」と教えてくれました。琵琶湖が冬の訪れを教えてくれる…とっても素敵ですね。



木の実や落ち葉で遊ぼう！



島内を散歩すると、いろいろな木の実や落ち葉に出会います。子どもたちは拾った木の実や落ち葉を見て、「赤い葉っぱ。」「穴があいてる。」「おばけみたいな葉っぱ。」「大きい。」「細長いわ。」など落ち葉で気づいたことを表現していきます。拾った自然物を一緒にの袋にいれておいても、

「これ、㊦㊧㊨が拾ったやつやで。」

と探し当てます。よく観察している子どもたちです。

自然物に一つも同じものがないことを気づかされる瞬間です。



拾ってきた木の実や落ち葉を使っていろいろなものを作ったり、遊びに使ったりしています。

枝に毛糸を巻いてみたり、顔を描いたドングリを枝につけたり、松ぼっくりにモールやボンボンなどつけてツリーにしたり、木の実マラカスを作ったり…。

これからも、秋の自然物を使って、制作遊びやままごと遊びを楽しんでいきたいと思います。



かたつむりさん。ありがとう。元気でね。



6月の雨上がりに見つけたかたつむりさん。小さい卵を産んでたくさんの赤ちゃんを見せてくれました。ところが11月に入って、大好きだったキャベツもキュウリもあまり食べず…「元気がないね。」「どうしたのかな?」などと心配する子どもたち。「赤ちゃんに会いたいのかな?」「みんなに会いたくなったのかも。」「寒いから落ち葉の布団に入りたいのかな?」…。話し合っ

て逃がすことにしました。「今まで、ありがとう。」「たくさんの赤ちゃんを見せてくれてありがとう。」「また、遊びに来てね。」「バイバイ。」

しばらくすると、幼稚園の廊下の窓にかたつむりがひっついてのを見つけてました。「もう、会いに来てくれたんだね。ありがとう。」

